普及情報

いちじくを相生市の特産品に

相生市では2001年から、いちじくの産地育成に取り組んでいる。小規模ではあるが、新規作物の導入による特産作物育成の事例として注目している。

1　いちじくの導入

相生市ではこれまで特産作物と呼べるものがなく、課題となっていた。いちじくに着目したきっかけは家庭果樹レベルでいちじくを栽培していた農家からの「いちじくはあまり手をかけていないが比較的良いものが採れる、この地区でも広げられるのではないかと思うがどうだろうか？」という相談であった。

完熟でこそおいしく、日持ちもし難いことから直売所での販売にも向いている、低温が苦手ないちじくであるがこのあたりでも十分育っている、などのことを話し合い、その農家を中心に輪を広げ推進することにした。

2　推進体制

希望者を募って視察研修や挿し木の講習会などを行い、2004年７月に「相生市いちじく生産組合（38名)」を設立した。相生市、兵庫西農協も特産物育成ということで積極的に動き、それぞれが事務局、栽培指導、販売指導などの役割を分担して対応している。現在、毎月１回の講習会を行い、肥培管理技術の習得や組織育成に取り組んでいる。

3　栽培状況

品種は「桝井ﾄﾞｰﾌｨﾝ」で、栽培様式は一文字整枝である。2002年３月に挿し木を行い、翌2003年３月に定植した。全体で約500本の植え付けとなり、今年初収穫を迎えることができた。

栽培面では、講習会や現地指導を通じてスリップスとハダニの防除、防風や防虫防鳥のネットの設置、適正な収穫等について重点的に取り組んだ。栽培者のほとんどは初心者であり、数本レベルの農家も多かったことから、十分管理できるか心配であったが、会員はそれぞれ熱心に取り組み、無事初収穫にこぎ着けた。

4　販売について

販売については農協が中心となり、2006年４月にはファーマーズマーケット「旬彩蔵上郡（仮称)」がオープンする予定があり、目玉商品の一つとして期待されている。将来的には市場出荷も視野に入れつつ、地元量販店や直売所での対応などにも力を入れていく予定である。

5　今後の目標

関係者の役割分担と前向きな農家の取り組みにより、小規模ではあるが新規産地育成の第一歩が踏み出せたと感じている。引き続き活発な取り組みを続け、相生市の特産作物としての定着を目指したい。

栗山吉弘（上郡農業改良普及センター）

図　熱心な質問が飛び交う栽培講習会